

## Contents

新年のご挨拶

教えてドクター！ 脳神経外科

診療科のご紹介 皮膚科  
歯科口腔外科

連携医療機関のご紹介



vol.85  
2024.1

JCHOだより  
うえーぶ  
Wave



独立行政法人 地域医療機能推進機構  
東京高輪病院

医療連携・患者支援センター

〒108-8606 東京都港区高輪3丁目10番11号  
TEL: 03-3443-9576 FAX: 03-3443-9570  
<https://takanawa.jcho.go.jp/>

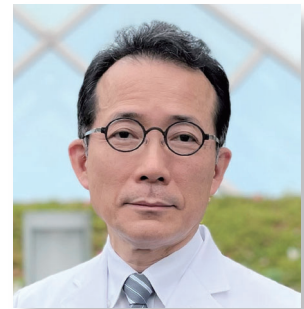
## 病院理念

心のこもった医療を安全に提供します。



## 新年のご挨拶

JCHO東京高輪病院 院長 やまもと じゅんじ 山本 順司



明けましておめでとうございます。皆さまには素晴らしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染症（COVID19）も昨年5月8日に5類に再分類された後に第9波といわれるような感染者の増加が7～9月ごろにありましたが、5類ということもあり病院運営にはあまり影響がありませんでした。コロナが収束した後は10月をピークにしてインフルエンザが流行したようですが、現在は少し落ち着いております。今回のパンデミックで私たちはいろいろなことを学びましたが、諸外国の対応との違いで気になったのは、COVID19という社会現象に対する科学的態度でした。ヨーロッパではスウェーデンで行われたノーガード政策が印象的でした。当初から感染状況が2年以上は継続すると予測し、強制的感染対策を行わない政策をとりながら、感染がどこどこで拡大したのか、感染症が社会経済活動、公衆衛生（高齢者施設の入居者のADLや認知症の進行、社会との接点を失う若者の精神保健）、遠隔授業による子供への教育効果、家庭内暴力・児童虐待のリスクに与える影響を検証し、報告しています。イギリスではワクチン2回接種を条件に観客を入れて大規模イベントを行った後、感染状況を追跡調査し、「ワクチン接種者がルールを守れば大規模文化・スポーツイベントを安全に開催することが可能」と総括し政策に反映しています。日本では、全国民にマスクを配布したり、ロックダウンをしたりしましたが、社会的措置が感染状況にあたる結果を検証し、次の政策に繋げていく科学的態度が見受けられなかったのは残念です。

さて、地域医療にさらに貢献するために、来年度から診療体制を変更いたします。まず、高度医療センターでの診療までは必要がない中等症の患者さんに対して十分に対応できるように今年4月からHCUを再開します。昨年度4月に形成外科、7月から婦人科を開始しましたが、受療される患者さんは順調に増えており4月より常勤医師2名体制といたします。また脳神経内科を開始します。脳血管の病気に対するカテーテル治療が24時間可能になりますので、既存の脳外科と合わせて脳卒中患者さんに対して格段に幅広く対応できるようになります。また信頼のおける医療を提供するためには「顔の見える関係」が重要と考えており、各診療科での渉外活動を奨励しております。皆さまの仕事場に伺うことが多くなると思いますが、短時間で結構ですので、お付き合いいただければと存じます。

当院は医療連携をますます強化し急性期から回復期のリハビリさらには介護まで切れ目のない医療を提供することで地域医療を支えることを目標に職員一丸となって取り組んでまいります。

本年もご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



# 脳神経外科

## 脳神経外科と認知症

### 見逃されてませんか？ 諸々の症状

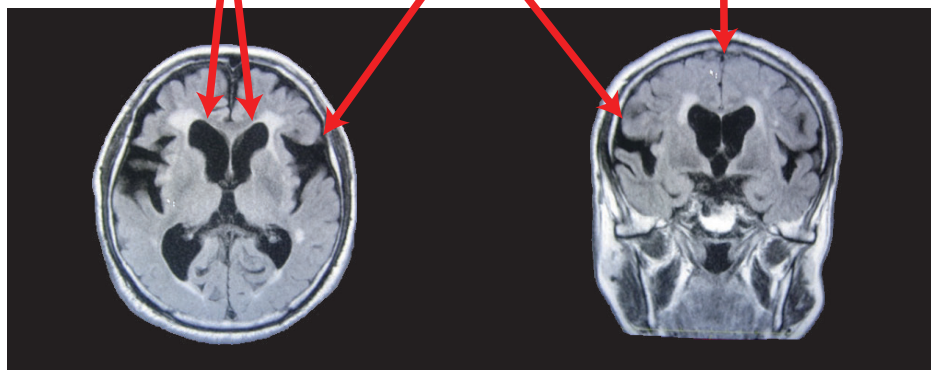
2021年11月に東京高輪病院に赴任しました脳神経外科の笹原 篤と申します。私は頭部外傷や脳卒中の診療に携わる一方で、脳の重要な機能である高次脳機能障害、認知症の治療についても積極的に診療を行っております。現在日本は未曾有の高齢化社会を迎え、65歳以上の6人に一人が認知症であるといわれています。認知症の多くは投薬で進行を遅らせる方法以外に治療法がないのが現状ですが、少ないながら手術で治療できる認知症も知られています。脳神経外科で認知症の様な症状で発症する疾患には、慢性硬膜下血腫、特発性正常圧水頭症があり、その他脳腫瘍、脳卒中が挙げられます。慢性硬膜下血腫、脳腫瘍、脳卒中は画像上すぐに診断がつかますが、特発性正常圧水頭症（iNPH）は特徴的な症状・画像所見があり、意識していないと見過ごされることが多々あります。iNPHの症状としてはもの忘れに加え、最近転びやすくなった、トイレが間に合わなくなったなどの症状を自覚したり、指摘されることにより認知症ではないかと診察に来られる方が多く、CTないしMRIで下記画像所見を呈していることが殆どです。御家族にiNPHの症状を指摘されたことがある方、またはご家族にそういった方がいらっしゃる方はぜひとも当院脳神経外科の受診をお勧めします。脳神経外科の専門医、認知症の専門医が詳細に診察し、今後の方針をお示しします。また当院脳神経外科ではそういった患者さんを見逃さないために、転倒を主訴に救急外来に搬送される患者さんに対しても、外傷による所見のほかに水頭症が隠れていないかも詳細に診察しております。当院脳神経外科を安心して受診ください。



ささ はら あつし  
笹原 篤

脳室の拡大      前頭葉と側頭葉の間の脳溝は拡大      脳溝(脳表のしわ)は目立たない

特発性正常圧水頭症のMRI所見



### 診療科のご紹介

## 歯科口腔外科

医師 良知麻衣子



### お口でお困りの方はご相談ください

当科は、口腔外科を専門とする歯科医師による診療科です。

親知らず・過剰歯などの難抜歯、あごの嚢胞・腫瘍、口腔粘膜疾患、歯性感染症、顎変形症など顎口腔領域に関連する疾患やインプラント治療、当院通院中の基礎疾患をお持ちの方の歯科治療や周術期の口腔ケアを行っています。

最近では子供の矯正治療だけでなく、大人になって矯正治療を始める成人矯正を行っている患者さんも増えています。歯科矯正治療は、外科的な治療を伴うことが多い治療です。当科は、顎矯正手術や歯科矯正治療に関する抜歯や開窓牽引、アンカースクリュー（プレート）の埋入、コルチコトミー、小帯切除など対応しています。入院管理下で全身麻酔を併用し複数の親知らずを同時に抜歯することで治療期間の短縮も可能です。現在も近隣の矯正医の先生方からご依頼を頂き連携して診療を行っています。どうぞお気軽にご相談ください。

また、外傷（顎骨骨折、歯牙脱臼、軟組織裂傷など）、抜歯後出血などの急患に対応していますので、ご相談ください。

地域の先生からのご紹介で当科を受診され、口腔の症状を初期症状として全身疾患が見つかることがあり、日々の診療の中で地域医療機関や他の診療科の先生方との連携の大切さを実感しています。今後も病院歯科の利点を生かして、地域の健康に貢献したいと考えています。

## 皮膚科

うす い ま り こ  
医師 白井真理子

## 他科と連携し適切な医療を提供いたします。

当院皮膚科は東邦大学皮膚科学講座（大森）の関連病院となっており、現時点では、指導医（皮膚科専門医）とレジデントの2人体制で入院・外来診察にあたっております。

以下、お問い合わせの多い件について、ご案内致します。

## 【陥入爪・巻き爪治療】

爪囲炎を伴う症例は内服外用治療を、肉芽腫形成例については冷凍凝固を施行し、テーピング法やコットン法も併用しながら、基本的には爪を温存した上で治療します。爪の手入れ方法についても指導します。

特に痛みが強い症例やご本人の要望が強い場合は、形成外科に抜爪術のご相談をします。

## 【原発性腋窩多汗症のボトックス注射（保険適応）】

年間80件前後のボトックス注射治療を行っております。

特に汗にお困りの場合は、比較的涼しい時季は近医での外用療法、暑くなる時季は当科でボトックス注射（持続期間は通常4~9ヶ月）、という方もいます。

当院ホームページに患者さん向けの詳しい内容が掲載されています。ご興味がありそうな方には是非ご案内ください。

## 【パッチテスト】

金属17種、パッチテストパネル（S）を用いたパッチテストを行っております。

基本的なスケジュールは火曜日に貼付、木曜日に48時間判定、金曜日に72時間判定、必要例には1週間後判定、です。（初診日に日程を決めます。）

長引く口腔内病変や接触皮膚炎、掌蹠膿疱症などお困りの患者さんがいましたらご検討ください。

## 【皮膚腫瘍の切除希望】

主に色素性母斑や脂漏性角化症、粉瘤の切除などの小手術、また、悪性腫瘍が疑われる際の皮膚生検も積極的に対応します。比較的大きな皮下腫瘍等は適時形成外科と連携し適切な対応を致します。

最新の診療体制等については、当院ホームページや地域連携室にご確認ください。

地域のお役に立てるよう努めて参ります。何卒宜しくお願い申し上げます。

## 連携医療機関のご紹介

## 13 堀産婦人科

ほり かず ひろ  
院長 堀 量博

## ここ高輪で90年

## 小学生からおばあちゃままで、生涯通して女性を応援して参ります

昭和8年、祖父がこの地高輪で開業して以来、みなさまと共に90年間歩んでまいりました。おばあちゃん、お母さん、娘さん、そして娘さんの赤ちゃんと4代にわたりお手伝いさせていただいた方もいらっしゃると思います。現在は分娩の取り扱いはしておりませんが愛育病院をはじめ近隣の病院とセミオープンシステムで連携をとりながら妊婦健診、NIPTなどの遺伝診断、不妊治療、男女うみわけを行っています。子宮がん検診、乳がん検診、ブライダルチェックは院長が細胞診指導医であり、内視鏡も併用して診療にあたっております。最近では生理痛によるトラブル、痛みのために学校を休む、仕事に行けない等社会的な問題になっています。現在、生理痛を抑える薬など多く開発され、月経をコントロールすることにより小学生から閉経まで痛みなどの不快な症状から開放されるため多くの患者様に処方しております。ぜひご相談ください。

東京高輪病院には乳腺の精密検査をはじめ永くお世話になっており、今回婦人科が新設され今後はよりいっそう、密に連携をとりながら女性のより良い生活の質の上昇のため診療にあたっております。今後ともよろしくごお願い申し上げます。



東京都港区高輪3丁目7-8 TEL.03-3449-3541

<https://www.hori3541.or.jp/>

12月某日、港区医師会長坪田先生と当院院長山本先生とで対談を行いました。港区での当院の立ち位置や連携、高輪病院の今後などについてお話し頂きました。坪田先生が開業された背景についても伺いましたので、是非ご一読ください。

#### 遠藤事務部長

開業されたきっかけ、またなぜこの地を選ばれたのでしょうか？

#### 医師会長

2つとも面白い回答になってしまいますが、昭和47年に現在クリニックが入っているビルが竣工し、その時からこの地で父親が開業していました。その父親が66歳で急逝したため、まだ小生は臨床5年目が終わる頃ですが、その後を継ぎました。なので、この地を選択もしていなければ、開業の動機もなく、父親の継承したところです。

大学病院では循環器、血液内科の医局に入っておりました。CCUにも関わっていたので急性心筋梗塞なども、慣れてはいたので（開業は）怖くはなかったです。今まで大きな事故も起きなくて良かったと思っております。

#### 山本院長

卒後5年目からですか？自分ならものすごく不安だと思います。

#### 坪田会長

不安というよりも、状況が飲み込めてなく、ただ、やらなきゃいけないと言う使命感だけでした。地域医療に関しての意識は希薄でしたが、大学の上司が地域医療に対する理解が深い方で、「患者さんを紹介する時には必ず紹介状を付けて返さなきゃいけない」と指導されました。その当時大学病院にいる先生としては珍しかったと思います。開業してから病診連携を一生懸命やってきたつもりですが、顔が見える連携にこだわるのは紹介逆紹介の時のスキルの一つだと思い、その方がやり易いんじゃないかなと 思っております。

#### 遠藤事務部長

医師会長からみて、港区での高輪病院はどのような立ち位置でしょうか？

#### 坪田会長

せんぼの時とは、変わってきていると思います。以前は何でもイケイケゴゴという感じで全部やるんだという風に見えました。ただ、それだと港区には競争する医療機関がたくさんあるので大変ではないかと思えます。地域の医療はそのまま継続して頂きたいと思っておりますが、大事なのは病病連携ですよ。病院同士の連携をしっかりと行っていただきたいです。超急性期の病院が満床で診てくれない時にバックアップしてくれるのが地域としてはありがたいと思っております。当然病院には経営方針があると思いますが、後方支援はほかの急性期ではできないと思えますから、急性期と後方支援どっちの立ち位置でもやって頂くとうれしいと思っております。

#### 山本院長

地域連携室が非常に熱心に病病連携で頻りに訪問活動をしておりますが、最近、病診よりも病病の方があまり利用してくれていない状況です。大病院でも満床にならず、DPC3期になってもそのまま入院させて、そのまま自宅に帰しているのじゃないのかなと、そんな印象を持っています。

#### 坪田会長

港区は唯一、在宅医が余っている地域です。なので、後方支援病院に送らずとも、そのまま自宅に帰しても、直ぐに在宅医に診てもらえる地域なんですよ。他の地域では（在宅医が）足りないの考えられない状況ですし、普通であれば在宅医が見つかるまでは、病院に入院してなければなりません。

#### 山本院長

在宅医療と高度急性期と両端の医療を運営しやすいようにしておいて、地ケア頑張らせて言われても難しいですよ。

#### 遠藤事務部長

港区医師会と高輪病院との連携の在り方をどう進めていきたいですか？

#### 山本院長

高輪病院に対して、港区の開業医の先生方からの要望や不満など

を教えて頂ければ、どんどん変えていきますので、是非、教えてもらいたいと思っております。救急体制について、救急隊からの依頼の不応需を見ると、中等症のだけが重症化するかもしれないので救急を断っている現状があります。そこで、そのような患者を受け入れられる体制を整えていこうと、来年4月からはHCUを4床で再開しようと考えています。

また、これまでは救急での脳血管疾患に対して、血管内治療ができなかった（卒中Bしか対応できなかった）のですが、来年4月からは脳血管内治療ができる医師2名が赴任するので積極的にやります。救急は今まで以上に充実すると思っております。

#### 坪田会長

救急に関しては、今までも受け入れ体制はいいですよ。

#### 山本院長

ありがとうございます。HCU（高度集中治療室）がないと言うことで、軽傷の問い合わせが多く、入院になる割合が40%に満たない状況です。救急の応需率は80から90%程度なので消防署からは非常に成績が優秀であると言われております。

#### 坪田会長

SCU（脳卒中集中治療室）ネットワークに高輪は入られるのでしょうか？

#### 山本院長

はい。働き方改革の面からもネットワークに入って、適正に地域を管理する体制を作っていきたいと思っております。

#### 坪田会長

2024年4月から医師の働き方改革が始まるので、それに向けた対応ですね。

#### 山本院長

はい。働き方改革では、医療者と患者さんとのお互いの医療に対する意識を日本全体で変えていただきたいと思っております。私の患者、私の先生ではなく、私はこの病院にかかっている、私はこの外科チームに診てもらっているという意識を患者さんには持ってほしいと思います。高輪病院でもチーム医療をしていかなければと思っております。

#### 坪田会長

そのあたりがまさに厚労省が言うところの医療資源の適正化ということですよ。患者さんへの教育の問題ですので、なかなか難しいですよ。

#### 遠藤事務部長

今思う港区医師会、医師会長から高輪病院に期待するもの、求めるものは何でしょうか？

#### 坪田会長

私としては都合の良い病院で不満はありません。山本院長がおっしゃられたように、医師会会員からの意見や不満をどのような形で吸い上げ、それを伝えていけるかを考えないといけないと思えます。例えば、医療連携の会ではなかなか話が通らないので、診療科毎位の10人くらいの小さな会合の方が話が通り易いかなと思っております。

#### 遠藤事務部長

コロナでなかなか今まではできなかったのですが、これからは小さな会も含めて開催できればと思っております。

#### 坪田会長

病院同士の話の中で開業医の話が出来れば良いと思っております。

#### 山本院長

これからは、各診療科の医師が紹介して頂いた開業医の先生にご挨拶に回ろうと考えていますので、嫌からずに5分10分でもお時間を頂ければと思っております。



坪田会長

山本院長